



あらためて知る、 神社の魅力

奥州須賀川の総鎮守 神炊館神社

神炊館神社の由緒

須賀川市内の目抜き通りから一本裏道に入るだけで、別世界のような静寂に包まれます。住宅街の狭い道を抜けると大きな石の鳥居が。鳥居の右には「神炊館神社」の文字。江戸城無血開城の立役者「山岡鉄舟の揮毫」と書かれていて驚きました。



神炊館神社は須賀川城初代城主、二階堂為氏が一四四五年、城内に諏訪社として建立。一五九八年に諏訪町に御神体を遷し現在に至ります。神炊館神社という社名は全国でもここだけ。主祭神の建美依米命(たけのみよりめ)のみこと。が統治の成功を願ひ、新穀を炊いて捧げた事に由来するそうです。



悲願の神楽殿が完成 町の賑わい創出へ

東日本大震災は神炊館神社にも甚大な被害をもたらしました。灯笼や上杉景勝が寄進した石の鳥居が崩壊。神楽殿も被害を受けましたが、今年九月、秋季例大祭の吉日に新神楽殿が竣工。五十年ぶりに太々神楽(だいだいかぐら)が奉奏されました。神楽殿は神楽を奉奏するほか、神炊館太鼓の伝承育成と氏子の諸芸能の発表の場としても活用していく予定です。神楽を奉奏する二階部分に上がると、柔らかな光に満たされた空間が広がっていました。特徴的なのが一階部分。広くコミュニティスペースとして貸し出す予定で、椅子や長机ほか、壁には展示物に対応できるレーンも設置されています。



▲神楽殿の中から境内を



様々なシーンに対応する新発想の神楽殿です。禰宜の須田智博さんは「これを機会に気軽に神社に来て親しんでいただきたい。ひいては町の賑わい創出につながれば」と話します。地域の人から「お諏訪様」「諏訪神社」と呼ばれる地域に愛され根付いているのが感じられる神炊館神社。取材中も何人もの方が参道を通り、お参りしていく姿に出会いました。



▲秋季例大祭「神輿還御」

塩田太々神楽保存会 太々神楽▶



松尾芭蕉の足跡

俳聖・松尾芭蕉は元禄時代、奥の細道行脚の途中、神炊館神社を訪れています。平成十八年に奥の細道碑が建立され新たな名所の一つとなっています。



須田禰宜からのメッセージ



神炊館神社 禰宜 須田 智博さん

これからも地域に根ざした神社として、地元の人たちとの繋がりを大切にしていきたいと考えています。子どもたちが遊びに来てくれるような神社にしていきたいですね。光や水、自然といった鎮守の杜のパワーもぜひ感じてほしいと思います。

取材協力



神炊館神社 宮司 須田 秀幸さん



奥州須賀川総鎮守
神炊館神社
〒962-0847 須賀川市諏訪町45-1
Tel&Fax 0248-73-2877
URL <http://www.otakiya.com/>



■三八稻荷
商売繁盛を願ひ、「市神稻荷」として信仰を集めたこの神社は、当時の市が三の日と八の日に催されたことから「三八稻荷」と呼ばれます。



■天満神社
学問の神様、菅原道真公を祀る天満神社には受験や検定に臨む人々が一年を通して熱心にお参りする姿が見られます。

神社境内の紹介

御朱印集めをする人に オススメ

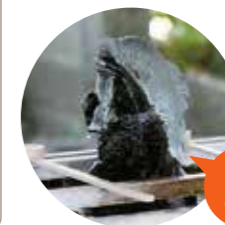


御朱印
山岡鉄舟揮毫による書を
あしらった貴重なデザイン。

- ① 右手でひしゃくの水をくみ、左手をすすぎます。
- ② ひしゃくを左手に持ちかえ、右手をすすぎます。
- ③ 再び、ひしゃくを右手で持ち、左手のひらに水を受け、口をすすぎます。(ひしゃくに口をつけません)
- ④ 口をすすぎ終わって、もう一度左手をすすぎます。最後にひしゃくを立て、残った水でひしゃくの柄を流して、元の位置に置きます。



■趣のある手水舎



参拝者が身を清める手水舎(ちようずや)が個性的で、通常、龍神様の口から水が出ていますが、ここでは鯉(?)の口から水が出ています。地下水で美味しいと評判。汲んでいられる方もいるとか。紅葉の進む木々や桜の大木にも出会い、まだ見ぬ四季折々の美しい景観を想像させてくれました。